

旧職員 後藤 一 昭
(創立 80 周年記念誌より)



平成6年度は本県の高校教育制度の大改革が推進されていきました。県民の高校教育へのニーズも県政モニター等の各種アンケートで普通科志向が強まり、職業科とりわけ商業科の学科改変がクローズアップされていきました。加えてもう一つ「総合学科」の設置の検討でした。将来的に「総合学科」の高校が主流を占めるのではないかとの文部省の調査官の発言も伝わっていました。

本校は本県商業教育の中心的推進校としての自覚のもとで、実践的商業教育がなされていました。しかし安閑としていられない状態と感じた服部良次校長、坂上静男教頭（現柏崎商業高校校長）以下多くの先生方が危機感を抱きました。早速、品田晴男先生を中心に本校の将来をどうするかを検討のため「学科改編検討委員会」が設置されました。プロパー校としての商業教育を一層推進するため、「総合学科」での存続は受け入れ難いとの全員一致した気持ちで推進していました。

一方、本校の生徒の気質は積極性にやや欠ける面もあるが、真摯に物事に取り組む姿勢の生徒が多いという印象を持っていました。主体的に物事に取り組み、一つのことを成就し、喜びを体得させ得る訓練の場の設置が望ましいと感じていました。私は当時、生徒会係を担当していました。「いち生徒会、ひと仕事」と自分達が運営している生徒会で一つの仕事を成し遂げる、この事の積み重ねが主体的な生徒会の運営で大切だと話し合っていました。

久しぶりの女子生徒会長西脇輝子会長、梨本葉子副会長、鈴木みどり幹事等の諸君に炉辺談話的に「商業クラブ」の事を話したところ、大変興味を示し「生徒達のやる気」を感じました。生徒会幹部も自分の進路の決定に多忙な学年のはずでしたが、意欲満々な生徒達で「やろう」と即決しました。職員会議へ参加の方向で提案し了解を得ました。生徒の主体的な取り組みが大切ということで参加への準備と、何に取り組むかのテーマ設定と基本方針の確立が最初の仕事でした。

基本的には全校生徒で取り組めるものであること、将来的には生徒会とは別組織を作るという方針で臨みました。当時全国的にも例を見ない大型店の「ウイングマーケット」が進出とのニュースを知り、商業高校として看過できないとの問題意識を持ち、「大型店舗進出の影響」に決定しました。「啐啄同時」とはこのような事を言うのかと思いました。

川瀬伸明先生を職員側のアドバイザーとし、早速生徒はアンケート用紙の作成に着手しました。一学期終業式近くになり完成し、配布、夏休み中に資料の

集計・分析、発表資料の作成と大車輪の活躍でした。多くの商業科の先生方からのアドバイスを得ながらも、資料の吟味不足、発表技術の稚拙さも加わり悩みも多く試行錯誤の連続でした。果たして発表に耐えるものなのだろうか。不安な気持ちを抱きながら、10月7日の第一回県大会兼全国大会予選会に臨みました。発表当日の他校の発表は機器を駆使したもので、それに圧倒されはしていましたが、内容的には負けていないとの自信はありました。

新潟商業高校の「地震対策」がライバルと感じていましたが、堂々と最優秀校として県代表に選出されました。この年は「第二回高校生産業教育フェア」が上越市民会館を中心に開催され、地元での発表は代表校以外の学校が発表しました。

本校の発表の場は全国大会開催地の群馬大会しかありませんでした。折角の高田商業高校ここにありの意気込みを示す絶好の機会を逃したかの思いもあり、複雑な気持ちであった事を覚えています。この年の「高商祭」に体育館で発表会を実施しました。

平成6年11月18・19日、前橋市での全国大会でも審査員からお褒めの言葉もいただきました。生徒達も自信につながり良い経験であったと思います。発表技術では全国大会になると、縦横無尽にコンピュータを始めビジュアルな機器を使いこなす学校が多く、反省材料としながらも大きな財産を得ての帰校でした。

生徒の活躍で栄誉を獲得し「高田商業ここにあり」、県下の商業高校関係者には大きな朗報となりました。地元の反響も高く、上越商工会議所の会頭様からは特別表彰状を頂きました。また、新潟日報始め上越ケーブルTV、新潟経済社会リサーチセンター、上越タイムス等の報道関係からの反響もあって、大きく報道されました。

その後、生徒の気持ちを考えると、生徒会が取り組むには仕事の量が多すぎ、加えて学習の場をより多くの生徒に経験してもらう事の意義を考え、別組織化が急がれました。「新潟県立高田商業高等学校商業クラブ」の別組織化が本腰で検討され、規約も完成しました。第一回の役員選挙には多くの生徒が立候補して、年末には認証式が行われました。

今は、名実ともに県商業クラブの牽引校の重責を担い得る学校になっていますことは喜びに堪えません。種は誰でも蒔けますが、肝心な事はそれを育てる努力です。県代表になることは1回位は可能とは思っていましたが、その後2回・3回と連続で、函館・大分と全国大会に駒を進められている事は、生徒の資質もさることながら、川瀬伸明先生・品田晴男先生・渡辺保先生・船崎聡先生始め、多くの商業科の先生方のご指導の力が大きいと思います。

何か新しい事を始める、この事から教えられたのは「生徒の潜在能力、可能性の大きい事を信じる大切さ」だったと思います。加えて「猪突猛進も大切」であり、「同志を得ることの大切さ」を学びました。貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。「継続は力なり」と申します。今後とも県商業教育と県商業クラブの牽引校としての高田商業高校の益々のご活躍を祈念しています。